



「晴乗雨叩」

野村 信之

子供の頃我が家に自転車が無かった。就職してボーナスで最初買ったのが当時新発売のブリジストンの折り畳み自転車だった。しかし現代のものに比べたら使用上も管理上も安全上も問題があった。結局あまり乗らないままさび果てさせて粗大ごみに出してしまった。

30年あまりして東京の災害時の帰宅困難問題が話題になった直後、勤め先の女子職員が彼氏のプレゼントのピアンキ(イタリア製のデザイン重視の自転車)に乗って通勤するようになった。話を聞いているうちに勤め先に自転車を置いての災害時帰宅がひらめいた。併せていろんな目的や効用も次々と思いつく、勤めの合間にも利用し、地下鉄やタクシーでの緊急戻席やにわか雨からの避難を考えて折り畳み自転車を買うことにした。昔とは異なるマニアの世界が広がっていて選択に迷うほど多様だが、畳んだり広げたりは操作はシンプルで安全になっていた。コンパクトになるが少し重いブロンプトン(イギリス)と軽いが少々嵩があるR&Mバーディのブジョー版(フランス:ただしロイヤリティはドイツ)は甲乙つけがたかったが、最後は当時イラク派兵をしていなかったフランスを選んだ。

欧米では、電車バスへの自転車の持ち込みは当然で、車いすと同じ扱いでスペースが用意されている。日本では混雑に伴うトラブルと自転車への反感(特にバス会社)から、そういう車両を用意するどころか共通ルールさえなかった。ようやく昨年大手鉄道会社は輪行袋収納(折り畳み以外は分解)を条件に無料持ち込みの共通のルールができた。バスはトランクルーム付きでも拒否している会社から運転手の状況判断任せの会社までバラバラのままである。輪行袋は日本だけのものだから良いものがない。そこで自分で裁縫してコンパクトなものを作った(左写真)。しかし6年使っているとあちこち破れ、進んだ老眼で作り直すのもおっくうになり、やむをえず市販のブカブカの袋を昨年買った(右写真:私の花押の刺繍を切り取って縫いつけた)。リュックサックのようにして背負うので、泊りがけの自転車旅行のように見えるのも気に入らないがしかたない。でも、畳んでポンと放り込むだけなので、巻きつけるよう

に丁寧に包んでいた私製のものよりは、準備の時間が少なくなっている点はなるほどと思っている。

当初は、昼休み+プラスアルファで、休日まで乗るのは少なかったが、江戸名所図会の現場探訪を始めて行動範囲が広がると月に2回は休日に事務所へ出るようになった。江戸名所図会が描いているのは600弱だが、絵の背景や脇に描かれたり記述だけのものも多く、登場する数は優に1000を越えている。リタイヤまでに全巻の4割近くをカバーし、リタイヤ後は自宅に自転車を置いて回り続け、3年7ヶ月ほどでようやく一巡した。

この間、荒天の日などにキーボードを叩いてWEBサイト「雑学の交差点」にその記録をアップしてきた。閲覧者や知人からのアドバイスを参考に表現を少しずつ変えた結果、図会探訪だけでも最初と最後でスタイルがだいぶ変わってしまった。そこで調べ残しをフォローしながら書き直しているが、絵を隅々まで見たり読み直したりすると出向くべき箇所が増え結局二巡目に入っている状態である。

ピアンキで通勤した彼女はコロナゴに昇格し、結婚して入居したマンションに自転車チューニング専用の部屋を確保したというし、若い頃から部品を輸入して自転車を自分で作りこれまで注ぎ込んだのは2000万円、出勤前に3~40km走り、週末は最低1日150km乗り回しているという後輩の役人がある。彼らに比べれば私の自転車は若い頃に乗り回しきれなかった反動に過ぎず、趣味といえるほど上質なものではない。

注)私のサイト「雑学の交差点」は以下の通りです。お暇な折にご覧ください。<http://members2.jcom.home.ne.jp/nom-sin/>
下の写真は、6年半前首相官邸裏でのスナップ

